

はまごう小だより

あいさつ えがお
挨拶と笑顔でつながろう！

伊勢市立浜郷小学校

令和4年3月14日

発行者 平生 理恵

第28号

卒業式の総練習を行いました。

2月25日から、体育館は卒業式会場となりました。

会場設営をしてくれたのは、6年生が卒業した後浜郷小学校を引っ張ってい



ってくれる、5年生の子ども達です。5年生担任の指導のもと、シートを敷いて、椅子の間隔もメジャーで測りながら、みんなで力を合わせて作業をしていていました。5年生の顔からは、すでに「リーダー」としての気構えが感じられました。

お疲れ様でした。

そして、3月11日（金）、卒業式の総練習を行いました。例年であれば在校生代表として5年生が卒業式に参加するのですが、コロナの状況によりさまざまな制限がかかり、今年も在校生の参加は無しとなりました。しかし、5年生の参加には大きな意味があって、こういう場での空気を感じたり、卒業していく先輩達の姿を見たりして、自分たちの心構えが育っていくのです。そこで、総練習の時には、当日保護者席となるところを5年生の席とし、5年生も参加しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を懸念して、伊勢市内の小学校の卒業式では、歌も呼びかけも会場で声を出すことは控えることになっています。その為、卒業式当日は、事前に録音したものを使用することになっていて、6年生の子ども達は声こそ出していないが、一つひとつの動きをきびきびと行い、卒業証書を受け取る姿は堂々としていて立派なものです。5年生の子ども達は、「卒業式」という儀式的な行事の、いつもの集会やレクリエーション的なものとは違う空気感を十分に感じ取ってくれたことだと思います。

6年生の子ども達や保護者の皆さんにとっては、一生に一度きりの小学校の卒業式です。素晴らしい思い出の1ページとなるよう、職員一同も力を入れて頑張っています。



黙祷を捧げました。

2011年3月11日午後2時46分、巨大地震が発生し、東北や関東の沿岸に高さ10メートルを超える津波が押し寄せました。この事により、多くの方が命を落としたり、住む所を失ったりしました。この時、伊勢でも揺れを感じ、その日の事は私も強く記憶に残っています。

東日本大震災の発生から11年目の2022年3月11日、浜郷小学校でも、犠牲となられた方々のご冥福と被災地の復興をお祈りして、全児童・全職員で黙祷を捧げました。短い時間ではあったけれど、子ども達1人ひとりが命の大切さについてあらためて考える時間となってくれたことを願います。

最後のはま☆スタをしていただきました。

3月4日、小学校生活最後のはま☆スタをしてもらいました。

はま☆スタは黒瀬教育集会所さんが毎年おこなって下さる浜郷地区の地域学習です。6年生での最後のはま☆スタは「伊勢 浜郷を深く知ろう」と題して行われました。

今回は、浜郷地区のまちは、昔は『浜五郷』と呼ばれていたことから始まり、地域の写真や6年生の子ども達の1年生から5年生までの時の写真も見せてもらって、子ども達が今までどんなところで育ってきたのかをふり返らせてもらいました。地域の写真の数々は集会所の齋藤さんがあらためて実際に地域を回って写ってきて下さったものでした。齋藤さんのお話に耳を傾けながらも懐かしい写真に思わず笑い声もこぼれ、なんだかとても温かな時間を過ごさせてもらいました。

授業後の子ども達の感想では、「私たちは本当に地域の皆さんに守られていたのだとあらためて思いました。」とか「大きくなってもこの町をたいせつにしていきたい。」等といったものが多くあり、子ども達のふるさとを愛する気持ちが感じられて、とても嬉しかったです。



6年生が思い出づくりの学年レク行いました！

3月8日(火)、6年生の子ども達は、卒業前の慌ただしいときでしたが、学年レクをして最後の思い出づくりをして過ごしました。本来この日は、6年生の「お別れ遠足」の日となっていました。三重県は3月6日でまん延防止等重点措置が解除となりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染者数は高止まりをしていて、市内の10歳代の感染者がなかなか減らない状況でしたので、「お別れ遠足」の実施を断念せざるを得ませんでした。そこで、6年生の児童に何とかそれに変わるような過ごし方はさせてやれないものかと考え、担任団が知恵を出し合い、子ども達からの意見を集約し、この日の『学年レク』となったのです。

子ども達から出た意見を調整し、1日で計画を立て、さまざまなレクを楽しんでいました。今までやれていなかったことしようと、お弁当は屋上で食べました。お弁当を食べているときの子ども達は、どの子どもも最高の笑顔でした。保護者の皆さん、朝早くからお弁当の準備、ありがとうございました。

さぞかし楽しみにしていたお別れ遠足であつただろうと、職員一同本当に胸の痛くなる思いでしたが、子ども達が笑顔・笑顔で過ごしてくれて、救われた気がしました。最後には、何人かの先生方が卒業に向けての話を、子ども達にしに来てくれました。1人ひとりの先生のお話を聴いて、「あ〜、この子達もいよいよ卒業していくのだなあ。」と、感慨深く思いました。

